ごあいさつ

一昨年10月に労働者協同組合法が施行され、私たちワーカーズコープ・センター事業団も労働者協同組合法人への移行をいたしました。

地域に向かっては、「自分たちも何かやってみたい・役立ちたい」という市民の方々に、労働者協同組合法をお知らせし、協同労働を語り、周知のフォーラムや労協法人立ち上げ相談会・街づくり講座等に取り組んできました。

法制化は私たちの予想を超えて、地域に前向きな変化を起こしており、改めて協同労働が法制度として社会化された意味の大きさを実感しています。

法制化を記念して作成した映画「医師中村哲の仕事・働くということ」の自主上映会は各地で盛況です。

私たちの事業の出発点である「よい仕事」「働くことの意味」を、この機会に改めて問い直し、法制化の意味を深めたいとの思いで取り組んでいます。

「戦争と平和」についての感想も寄せられていますが、「なるほど仕事とは何か・働くとは何かを考え直したい」との感想も多く寄せられています。

戦乱のアフガニスタンで医師でありながら「水路」づくりに打ち込む中村医師の姿勢は、労協法第一条の「地域における多様な需要に応じた事業」という命題を、生きることと仕事の根幹にまで迫りドラマチックな映像になっていますが、労働者協同組合法の理解に一役も二役も買っています。

自治体の方々への理解を広げることも大事ということで、各地で仲間が先に挙げた相談会やフォーラムや首長さんとの懇談に精力的に取り組み、「市民による公益事業」の展望等お伝えしています。

そこでは自治体の方の受け止めで、法制定後これまでとは違う反応が起きているのが特徴です。

ワーカーズコープ・センター事業団を子育ち・高齢者ケア・障がい児者ケア・困窮者支援に取り組んでいる事業者等、これまで特定の事業分野の関係であったものが、分野を超えた「地域社会そのものをどう創造するのか」という、より大きなテーマでのやり取りが始まっています。

したがって労働者協同組合法人の特徴として「地域づくりの事業者」としての社会的な認知を得ていく可能性を感じています。

第一条にうたわれた「持続可能な地域社会」への労働者協同組合としての接近がすでに始まっていて、仕事を通じた「地域づくり」を主眼とした事業の展開がこれまで以上に求められていると感じています

本日現在、87の労働者協同組合法人が全国で立ち上がっています。業種は様々で、キャンプ場の運営や空き家の管理、中には音楽イベント企画運営など、多様な事業領域に発展する可能性を感じます。

それと同時に、特に私たちとの接点がある、新たに立ち上げた団体の共通点は「協同労働」についてのとらえ方です。

働き方や働く仲間の関係等、これまで漠然と「みんなで力を合わせて仕事がしたい」と考えていた方々に「協同労働」は、人間の基本的な営為である「労働の世界」に「自立と協同」という新しい息吹を吹き込んで、「励ましあい・学びあい共に成長していく…そんな働き方ができるんだ」と支持と共感が寄せられていることも大きな特徴です。

労働者協同組合法の第一条には「協同労働」という言葉は出てきませんが出資・従事・意見反映という形で定式化された新しい働き方である協同労働が、社会的に地歩を得ていく可能性をここでも感じているところです。

法制定にご尽力いただいた関係者の皆さんに改めてお礼申し上げるとともに、普及の一翼を担う立場としての社会的責務を、尚一層果たしたいと決意を新たにしているところです。

また、私たちもこれまでの事業や運動のあり様、特にコンプライアンス等で課題を抱え、組織の新たな刷新に全力を挙げて取り組んでいるところです。何卒、旧来にも増してご指導・ご鞭撻を頂けますよう心からお願い申し上げます。

2024 年 4 月 1 日

労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団
代表理事　　平本　哲男